

日系社会支援へ団体を設立

南カリフォルニア
南加岐卓県人会100周年からの風

9

ロサンゼルス・リトル東京では毎年8月、二世ウィーク祭(日系二世をリトル東京と呼び戻すために始められた)が1930年ごろから開催されている。

7月はこの準備で多くの日本人・日系人は大忙しだ。私もパレードでは「ねぶた祭り」お囃子(笛)で参加する。

2001年9・11テロ事件以来、リトル東京活性化・日系社会サポートを目的として、非営利団体を設立。リトル東京の掃除やフリーマーケット、そしてパトリール、またイベントや他の

非営利団体のサポートをしながら日系の人たちと交流している。このボランティア活動を始めて今年で10年がたつ。

1989年に渡米してから、K(感性)・D(度胸)・D(努力)をモットーに沖繩出身の夫と、ファッション関係ビジネスを展開。日本のバブルと同時に私たちのビジネスも軌道に乗り、ダウンタウンのビルトモアホテルや、ビバリーヒルズのロデオドライブ、そしてリトル東京等に店舗を展開する事ができた。

まさに移民・海外移住

「冒険」をまっしぐらに突進してきた。3年前には愛犬と一緒にアメリカ横断を達成。しかし災害・戦争などを機に人生は左右されるもので、私もニューヨークテロ事件後、環境などが一変し、現在では、手作り家具卸業やボランティアをしながら、ローカル新聞社でも活動している。

去年TBSが制作した「99年の愛」Japanese American Family」が放映され、第2次世界大戦中活躍した442部隊や、日系12万人が収容所へ強制に入れられた事実がやっと日本で少しでも理解されたのではと安堵(あんど)している。

心の底から親しくできる日系人の仲間や友人は残念ながら今でも多くはないが、私たちが差別もなく自由にアメリカで働き生活できるのも、先人たちのおかげであり、感謝と尊敬を持って日系の人たちと接すれば、真の友好が生まれるに違いない。

最後に南加岐卓県人会100周年を機会に、岐卓県の皆さまのお役にも立てるよう、心掛けたい。(文、我部・青山・優子)

がべ・あおやま・ゆうこ



現在はイン
ドネシア手
作り家具卸
業、非営利
団体「Basc
cksta

ge 21」代表、日刊サン(スポーツ新聞)・羅府新報(日米新聞)勤務。ロサンゼルスと沖繩でスロー・インディアナライフを計画、沖繩宅改築中。関市出身、53歳。



Angels Japan Day 2010 Matsui Meet & Greet Event (羅府新報提供)